



さくら通信

秋田県議会議員桜田ゆうこ活動報告

2024年1月発行

No.3

Check!



公式LINE



ホームページ



[発行] 桜田ゆうこ事務所 秋田県秋田市御野場1-1-9 / TEL 090-7062-4666 / FAX 018-829-4321

議員1年目を振り返って

昨年は、豪雨災害や酷暑、熊被害など、様々な災害に見舞われた1年となりました。改めて被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、4月の選挙で初当選させていただいて以来、3回の定例県議会に臨みました。この間、皆さんから届けていただいた声に基づいて、制度や現状を調査したり分析したりしながら、自分なりに課題や方向性を見出し、議会での質問や要望を行ってまいりました。中には、少し前に進めることができた課題もありますが、それも、皆さんの声があったからこそ。様々な声や情報・ご意見をお寄せいただきましたこと、そしてあたたかいご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

今年は、能登半島地震や航空機事故などショッキングなニュースでの幕開けでした。こうした被害を少しでも小さくしていくことが政治の役目でもあります。そのことを肝に銘じ、2年目の活動に取り組んでいこうと思います。

2024年が皆さんにとって良い年となりますことをお祈りいたします。



桜田 ゆうこ

6月議会 初の一般質問、11項目にわたり知事や教育長を質す(6/20)

現在、秋田県が抱えている課題で、最も深刻な問題は人口減少による労働者不足と考えています。働き手が足りないことで様々な産業・事業が成り立たなくなれば、衣・食・住だけでなく、私たちが生きていくうえで必要不可欠なサービスが受けられないことになってしまいます。6月議会では、労働者確保のための賃上げや魅力ある教育の実現などについて質問しました。



QRから議会中継が
ご覧いただけます

1 最低賃金の引き上げと、価格転嫁について

日本の平均年収は30年間で世界1位から24位へ落ち込み日本の若い労働力は、県外はおろか国外へと流出しているのが現状です。また、中小事業者からは賃上げしても下請代金が据え置かれているため苦しいとの声もあります。

櫻田 賃金水準の向上に向けた今後の方針は、最低賃金の都市部との格差を是正することが喫緊の課題では？

知事 経営規模の拡大、成長が見込まれる産業の振興、リスクリング機会の提供などに取り組み賃金水準の向上につなげていく。最低賃金は1,000円台まで引き上げるよう強く働きかける。

櫻田 価格転嫁をより多くの企業に波及させていくために、今後どのような取組を行っていくのか。

知事 「価格転嫁の円滑化に関する協定」を締結し気運を醸成している。「下請けかけこみ寺」の利用促進、セミナーの開催など、企業のサポートを強化していく。

2 公共交通を守るためのバス運転士の確保について

運転士不足などの理由から、バス路線の廃止や減便が余儀なくされており、利用者からは不便になったという声があります。バス運転士の賃金は低く、賃上げによる運転士確保が必要です。

櫻田 県民の足を守るため、どのような対策を講じていくのか。

知事 これまでも様々な助成・支援を講じてきた。賃金水準の改善や人材の確保・定着につながるよう、バスロケーションシステムの導入などに対し引き続き支援していく。

3 県営住宅の利用促進について

令和5年4月30日現在、空き家率30%を超え、居住者の高齢化や共益費の値上げ等が課題となっています。

櫻田 県内の低所得者層の若者や学生の入居、ワーケーションや社宅としての活用など、県営住宅に単身の若者が入居できるよう条件を見直し、より積極的な活用を進めるべきだと考えるが、知事の所見を。

知事 好事例の情報収集や入居需要について分析を行い、県営住宅の活用方策を多面的に検討していく。

4 「不登校特例校」「夜間中学」の設置と経済的支援について



2022年度の本県の不登校者数は1,566人で過去最多となっています。「教育機会確保法」が施行され、「不登校特例校」「夜間中学」の整備等が盛り込まれましたが、どちらも設置に至っていません。

櫻田 「イェナプラン教育」など新しい教育モデルでの不登校特例校や夜間中学を整備し発信することで、秋田に新しい希望を持ち込むことにつながるのでは。

教育長 不登校特例校については、そのあり方を研究していく。夜間中学については、そのニーズを捉えるための調査について検討していく。

一歩前進！

12月議会で加藤麻里議員から夜間中学について同様の質問があり、「住民ニーズや意向を含めた調査を市町村に対し実施する」との回答がありました。教育公安委員会ですらに質したところ、「今年度中に関係部局に対し調査し、それを踏まえてどんな形で調査するか検討する」との回答がありました。

櫻田 不登校の子どもたちの学ぶ機会を保障するため、フリースクール利用料等の無償化を進めるべきでは。

教育長 民間団体を利用している児童生徒数は近年増加している。国の動向を注視し今後も研究を進めていく。

櫻田 支援活動を行う方々が安定した生活で働くことができるよう、支援を強化していくべきでは。

知事 運営費に対する直接的な財政支援は難しいが、団体等の活動が円滑に行われるよう助言・指導を行い、より一層の連携により社会的自立に向けた切れ目のない支援につなげる。

5 高校入試受検料等の無償化について

県立学校の入学検定料は保護者の負担です。貧困家庭では県立高校と私立高校の併願は厳しく、受検機会の平等が担保されているとは言い難い状況です。

高校入学検定料

| | |
|---------|---------|
| 全日制課程 | 2,200円 |
| 定時制課程 | 950円 |
| 専攻科 | 2,200円 |
| 明桜高(R5) | 14,000円 |

櫻田 県として高校入試における入学検定料を無償化してはどうか。また、国に、受検料・入学金の無償化を要望するつもりはないか。

教育長 県立高校の入学検定料及び入学金については、全国同一の制度を基本とする運用がなされている。無償化は国の修学支援制度の仕組みを見直す必要があり、今後も国の動向を注視し情報収集に努めていく。

6 そのほかにも・・・

教員の長時間労働是正や、公務員の人材確保等についても質問しました。詳しくはHPをご覧ください。

9月議会 あきたこまちRの導入などを質問(10/2予算特別委員会総括審査)

1 秋田県児童会館けやきシアターの冷房設備について

秋田県児童会館けやきシアターは、冷房の吹き出し口が舞台右側に4つしかなく、28.8度程度にしか下がらない状況。また、エントランスにはエアコン設備がなく、利用される方から改善要望が届いていました。

櫻田 子どもや利用者の安全のため、冷房設備の改善や照明のLED化などの対策をとるべきではないか。

あきた未来創造部長 舞台上の照明のLED化なども含め、舞台の温度が下がるような工夫をしていく。

櫻田 秋田市文化会館が閉鎖され、けやきシアターの利用は増加している。分科会で住谷委員から要望されたレクリエーションホールの冷房等も含め、前向きな検討を。

知事 冷房の強さを調整しながら、まずは運用で不快な温度とならないようにしていきたい。

一歩前進！

12月補正予算に計上される！

児童会館安全安心確保事業 約140万円(スポットエアコン 7台/サーキュレーター 7台)

2 あきたこまちRの導入について

県が、カドミウムの低吸収対策として、「あきたこまちR」に全面切り替えするという方針に対し、放射線育種米に由来する不安等、反対の声があがっていました。自分なりに様々な調査や検討を行った結果、カドミウムの吸収をきわめて低く抑え、無期ヒ素の低減をはかることにより、より安心で、農家の方々の苦労も低減できる「あきたこまちR」の導入に賛成の立場で、農家・消費者が選択できるよう質問しました。

櫻田 カドミウムの国内基準が0.2ppmに下がった場合、今のこまちだと、どれくらい影響があるのか。

農林水産部長 簡単に試算はできないが、少なくとも管理地は2倍3倍になり、全県どの地域でも出る可能性があるかと心配している。

櫻田 従来こまちを選んだが、カドミウムが出てしまったのでは安全でない。田んぼの状況調査を行うべきでは。

農林水産部長 過去に調査しており、ある程度エリアはわかっている。ただ、どの地域でも出る可能性があるため、一斉に切り換え、安全な米として流通させるのが望ましいと思っている。

櫻田 県は、カドミウム、ヒ素などについて、丁寧に説明してこなかったのではないかと。

農林水産部長 あえて積極的にということからすればそうだったかもしれない。

櫻田 不安を感じている生産者・消費者のことを考え、従来こまちの種を県として準備をする予定はあるか。

農林水産部長 原種生産は他と混ざらないよう苦労して行っている。場所を新たに確保できないので、こまちRに絞って原種生産したい。従来こまちの原原種は管理しているため、希望者が原種生産・採種圃生産することも可能。

櫻田 食の安全や秋田の農業を思っている意見だ。分断や不寛容な雰囲気が生まれたいことを望む。

知事 農業の耕作は自由であり、全面的に強制するものではないということを認識していただくようにしたい。

櫻田 「完全」は100%と捉えられる。「原則」とかのほうが、今の説明に合っているのではないかと。

農林水産部長 全面切り換えという思いでアナウンスしてきた。委員がいう通り、選択肢もあると説明していくが、より安全な米を普通の栽培方法でできることを農家に理解いただき、切り換えていただくよう説明していきたい。

3 「令和5年度 知事と語らう未来の秋田」について

これについては、子どもの声を政策に取り込む本気の姿勢で実施するか、そうでなければ、今ある市町村の子ども議会等をブラッシュアップしていくような方向に転換をしていただきたいと訴えました。

12月議会 差別解消や多様性について質問(12/20予算特別委員会総括審査)

1 秋田県多様性に満ちた社会づくり条例に関して

秋田県多様性に満ちた社会づくり条例が施行になって1年半が経ち、6月にはLGBT理解増進法が施行されました。しかし、昨今、トランス女性を女性トイレに侵入させるなどという差別的な言動などが散見され、多様性条例の周知と相互理解が重要だと感じます。

(1) LGBT差別解消について

櫻田 昨今、トランス女性を女性トイレに侵入させるなどという差別的な言動があるが認識はどうか。

丹治理事 トランスジェンダーの方々は、むしろ社会に迷惑をかけたくないとの思いから、トイレを利用することに非常に遠慮し、つらい思い、生きづらさを感じている方がいると聞いている。

櫻田 いわゆる成り済ましによる女性トイレでの犯罪の可能性のみを強調して、トランス女性をあたかも犯罪予備軍であるかのように扱う主張は、多様性条例の差別的行為に当たるのではないか。

丹治理事 条例は差別かどうかという白黒を明確にするというような趣旨はない。理解が進んでないということから、相互理解の上で社会的な議論が必要と考える。

(2) 新県立体育館のユニバーサルデザインについて

櫻田 新県立体育館のユニバーサルデザインの特徴は？

観光文化スポーツ部長 プロバスケットBプレミアリーグの基準である車椅子の席や障害者の専用トイレの設置のほか、障害者団体の意見などを踏まえ、混雑する中でも安心して利用できる施設づくりを目指す。また、聴覚や視覚などの感覚過敏にある方向けに、センサリールームなどの導入も考えていく。

櫻田 県内のトイレでの犯罪は、刑法犯・事前事案合わせて24件で、うち3件が男子トイレでの事案だ。(令和5年度の11月現在)ジャニーズでの性犯罪もあるように、単に女性トイレからトランス女性を排除すればトイレの安心が担保できるというものではない。「禁止」ではなく、みんなまで知恵を出し合うべきでは。

丹治理事 来年度、国の指針が出されることになっており、その動向を注視していく。県としては、誰もが安心して生きられ生活を送れるように、官民が知恵を絞り、工夫をしていく必要があると考えている。

櫻田 センサリールームの設置に期待をしている。トイレにおけるトランスジェンダーに対する配慮はどうか。

観光文化スポーツ部長 多様性条例を踏まえ、様々な意見を聞きながら、先を見据えた施設にしていきたい。

櫻田 センサリールームについて、既存の文化・スポーツ施設への導入を検討する考えはないか。

知事 例えば武道館などメンテナンスもあるので、導入できるかどうか十分に前向きに検討したい。



2 子宮頸がんワクチンの「摂取しない」選択の周知について

櫻田 子宮頸がんワクチンの接種は努力義務で義務ではないので、受けないことも選択できるということでしょうか。

健康福祉部長 接種することが勧奨されているが、受ける、受けないはご本人の意思となっている。

櫻田 一部の市町村で、選択できることがよくわからない案内通知がでっており、保護者が「接種は義務」と理解している場合が見受けられる。市町村に対して今後指導していく考えがあるか。

健康福祉部長 ほとんどが厚労省発行のリスクも明記したリーフレットも送付しており、よく読んで判断していただきたい。そういった不安があるという声は市町村との協議の場等を通し、伝えていく。

Information インフォメーション

参考資料:「不登校や登校しづりを支えるプロジェクト」さんからいただいた情報をもとに、「居場所と相談先一覧」を添付しました。

ご質問・ご要望、「どこに話したらいいのかわからない」ことなど遠慮せずご連絡ください。

桜田ゆうこへのご連絡は携帯へ

090-7062-4666へ